

HOT

コミュニケーション

### 東京よりふるさと納税



ふるさと納税に100万円の寄付がありました。東京で化粧品会社を営んでいる当別町出身の岩崎裕美子さんで、公務で上京していた泉亭町長に目録を手渡しました。

岩崎さんはふるさとである当別に特別の思い出があるといい、町の発展にと寄付の申し出がありました。貴重なご寄付を大切に活用させていただきます。

(3月10日)

### スウェーデンパンの味は



ふれあい倉庫で、当別町とスウェーデン王国レクサンド市との交流の証であるパン窯を使った「スウェーデンパン焼き講習会」が開催されました。スウェーデンパンを研究している「スピエレット」のメンバーが講師となり、17名の参加者に伝統的な2種類のパンの講習を行ったもので、町内で生産された小麦粉（全粒粉）にライ麦などを加え、薫り高いパンに仕上がりました。

受講した皆さんにはスウェーデンの食文化に触れた楽しいひとときとなりました。

(2月19・20日)

### おかみとしての体験を伝える



当別町女性団体連絡協議会の主催で当別町140年記念女性の集いが西当別コミュニティーセンターにて開催されました。

「凛<sup>りん</sup>として－花柳界に生きて半世紀」をテーマにススキノの料亭「さわ田」のおかみとして活躍した沢田啓子さんが講演し、樺太からの引き揚げや様々な商売を転々とした苦勞話から、こらえることの大切さを伝えました。

また、沢田さんの三味線に合わせて札幌見番の芸者さんによる踊りも披露され、大いに盛り上がりました。

(2月25日)

# 広 告

亜麻工場で栄えた六軒町



当別歴史講座の第7回目が、ふれあい倉庫で開催されました。  
この日は「当別北部・東部地区の開拓」と題して、当別町教育委員会委員長の大澤勉氏が、農業や学校など自らの関わりをとおして研究された町の歴史を語りました。大澤氏が住む六軒町地区には、明治26年に繊維用の亜麻を加工する工場ができ、100人以上が働き、当時の当別村では一番栄えた地域であった話など、参加した83名の中には亜麻を栽培した経験の方もおり、懐かしく聞いていました。

(2月27日)

イグルーづくりは難しい？



北方民族の冬の住居、イグルーを作ろうと、わくわくキッズの取組みで、小学生を対象に講習会が行われました。

20名が当別小学校の中庭に集まり、はじめに雪を踏み固め、専用ののこぎりで雪ブロックの切り出しと、積みあげまでを3時間かけて行い、直径3mのイグルーが完成しました。

参加の子どもたちは「かまくらづくりより難しいけど、大きく造れば生活ができそう。」と疲れも見せず、父母の作ったココアをおいしそうに飲んでいました。

(2月20日)



# 告 白